

## ○ 教育研究相談・資料の提供

### 教育研究相談

校内共同研究の進め方や個人研究の相談、資料の提供等に応じます。

### 学習指導資料「十勝の子どもの学力」

CRT 検査による子どもの学力を教科別・観点別に分析・考察し、学習指導を改善・充実するための基礎的な資料として提供します。

### 広報誌「十勝教育研究」332号～334号

各学校や個人の取組、各町村研究所や研究実践校の紹介、十勝教育研究所の事業内容など、今日的な教育課題等の情報を広くお伝えします。

### カリキュラム支援センター・ウェブサイトの運営

各種教育用図書や各学校、研究所からいただいた研究紀要など、授業づくりの資料や教育情報として提供します。

### 研究紀要 No214・ダイジェスト版

今年度の共同研究、協力員研究の成果を提供します。

### 教育関係職員録

市町村教育委員会と連携して職員録を発刊します。



【昨年度の主な刊行物】

# 十勝教育研究所



## 平成31年度のしごと

## ○ 十勝教育研究所の沿革

昭和24年	2月	十勝教育研究所設立準備委員会設置
昭和26年	6月	研究所設立総会開催、十勝教育研究所並びに維持委員会を発足
	7月	十勝教育会館(帯広市東6南10)が完成、その一室に研究所を置く
昭和32年	12月	「研究所だより」創刊
昭和35年	3月	十勝教育研究所運営委員会設置
昭和37年	7月	「研究所だより」を改編し、広報誌「十勝教育研究」として刊行
	8月	「十勝管内教育関係職員録」を編集刊行
昭和42年	5月	新築された十勝教職員研修センター(幕別町依田)へ移転
昭和50年	4月	十勝管内町村教育研究所との「共同研究」を組織
昭和51年	8月	十勝管内教育研究所連絡協議会設立
昭和62年	4月	「共同研究」に帯広市教育研究所が加わり管内全教育研究所の共同研究を開始
平成7年	3月	新築された十勝教育研修センター(幕別町札内暁町)へ移転
平成8年	10月	北海道教育研究所連盟研究発表大会十勝大会開催
平成9年	2月	十勝教育研究所研究発表大会を継続事業として開始
平成12年	11月	全国教育研究所連盟「教育課題等研究協議会」大分大会で提言
平成13年	11月	全国教育研究所連盟「教育課題等研究協議会」北海道十勝大会開催
平成20年	4月	専任所長の配置
平成22年	9月	北海道教育研究所連盟研究発表大会十勝大会開催
平成27年	9月	北海道教育委員が教育状況調査で来所
平成30年	8月	道東地区教育研究所所員研修会十勝開催

## ○ 運営の基本方針

十勝教育研究所が十勝管内教育委員会連絡協議会によって設置されている公的な研究機関であるという性格に立ち、各市町村教育委員会はもとより、十勝教育局並びに教育関係機関、十勝教育研修センターとの密接な連携を図り、その中心的な業務である調査研究、研修活動、資料提供等を通して、十勝管内の教育の充実、発展に尽くすことを基本方針とする。

## ○ 設置

十勝管内教育委員会連絡協議会規約(抜粋)  
(教育研究所の設置・運営)

第14条 十勝管内の教育振興に寄与するため十勝教育研究所(以下「教育研究所」という。)を設置する。

- 2 教育研究所を運営するため十勝教育研究所運営委員会(以下「運営委員会」という。)をおく。
- 3 前2項の設置、運営について必要な事項は別に定める。

## ○ 所在地

### 十勝教育研究所

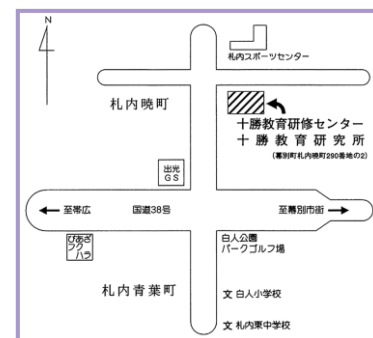
〒089-0531

北海道中川郡幕別町札内暁町290番地の2

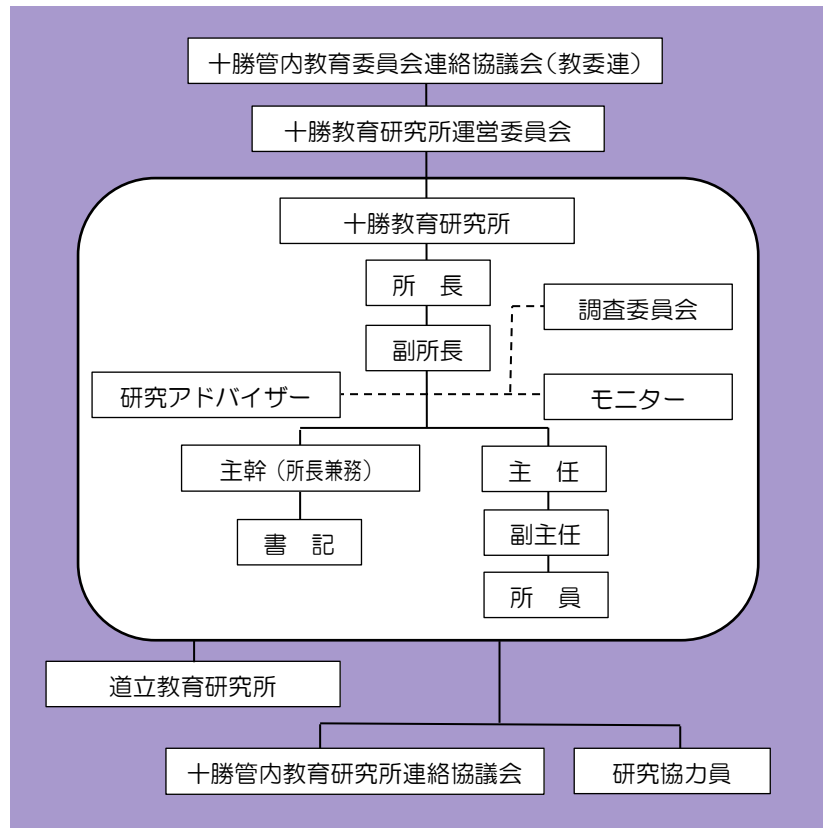
TEL 0155-56-2331 FAX 56-4260

Email staff@tokyoken.net

URL http://www.tokyoken.net



## ○ 機 構 図



### 十勝教育研究所のマークの由来



このマークは、昭和40年に当時の土門修所員と廣田良治所員により考案されました。外線が十勝の形を表し、アクセントを付けるために海岸線を太くしました。

また、当時の十勝は「豆王国」と言われたことから、十勝の地域的な産業のシンボルとして、双葉のマークを入れました。双葉の大小については、見る人の判断（例えば、大は教師、小は育まれる子どもの考え）に任せようと考えました。

「○」は太陽を表し、十勝晴れをイメージできるようにしました。

## ○ 研究機関としての研究

### 十勝管内教育研究所連絡協議会 共同研究

管内19市町村の教育研究所と十勝教育研究所が一体となって、授業実践を通じた研究を進めます。

#### 「自ら学習に取り組み、学びを深める子ども」を育む研究（1/2年次） ～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元デザインを通して～

全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果等において、課題の解決に向けて主体的に取り組んでいる子どもの割合が低く、教師と子どもの認識の差が指摘されています。そこで、「主体的・対話的で深い学び」の視点で単元全体を構想し指導と評価の計画を明確にした「単元デザインシート」を活用した実践研究を進め、自ら学習に取り組み、学びを深める子どもの育成を目指します。

### 十勝教育研究所 協力員研究

管内の小中学校各1校の協力を得て、協力員2名を委嘱し、授業実践を通じた研究を進めます。

#### 子どもたちが自己実現を図ろうとする特別活動の在り方（2/2年次） ～他者との関わりを生かして自己肯定感を高める学級活動を通して～

一年次の研究では、子どもたちが自己肯定感をもつとともに、未来の社会を切り拓くための資質・能力の育成を目指すために、授業記録等の活用によるつながりを生かす工夫と話し合い活動の工夫等による活動形態の工夫に取り組みました。二年次は、話し合い活動を通して自己有用感を高め、変容を可視化することによってメタ認知の育成を目指す実践的な研究を推進します。

## ○ 講演会・研修会の開催

### 十勝管内教育研究所所員研修会（7月4日：とかちプラザ）

各教育研究所の今日的な課題と役割を明らかにし、相互の研究成果の交流を通して各研究所員の資質向上を図ります。

### ミニ道研（7月18日・30日：十勝教育局・十勝教育研修センター）

北海道立教育研究所と連携して、7月18日に「道徳教育」と「実践から学ぼう！授業づくり・学級経営」、30日に「小学校におけるプログラミング教育」と「学級経営」の講座を遠隔研修等で開催します。

### とかち教育講演会（8月7日：幕別町百年記念ホール）

森崎博之氏（俳優/演劇ユニットTEAM NACSリーダー）を講師に招き、教職員、保護者、地域住民を対象に「生きることは食べること」を演題に、講演会を開催します。

### 教育講演会（10月29日：十勝教育研修センター）

國學院大學教授の田村学氏を講師に招き、教職員を対象に「主体的・対話的で深い学びの実現に向けて」（仮）を演題に、授業づくりを主題とした講演会を開催します。

### 十勝教育研究所研究発表大会（2月6日：十勝教育研修センター）

今年度、調査研究した成果等を管内の小中学校に広く提供するために、研究発表大会を開催します。

## ○ 関係機関との連携

### 北海道教育研究所連盟第16次共同研究（3/3年次）

管内・道内の各教育研究所と連携しながら研究を推進し、必要な情報を収集して管内の教育機関に広く提供します。

### 全教連、道研連、道東・管内教育研究所連絡協議会との連携

管内を代表する加盟研究所として、連携を深めるとともに、必要な情報を収集して、管内の教育機関に広く提供します。

## ○ 職 員 一 覧

職名	氏名	所属	業務分担
所長	高橋 康伸	専任	所務の統轄、道研連・全教連との連携、各教育機関・団体との対応
副所長	秦 公一	幕別町札内東中	調査研究・研修事業の総轄、業務推進に関する指導・助言、教育研究相談
主幹	当分の間所長が兼務する		庶務の掌理、運営委員会・各種会議の開催、教育関係職員録の編集
主任	角田 裕司	幕別町幕別中	共同研究「自ら学習に取り組み、学びを深める子ども」を育む研究、研究発表大会、所内・業務計画会議、とかち教育講演会、管内所員研、道研連発表大会、教育研究相談
副主任	金子 信隆	幕別町白人小	共同研究「自ら学習に取り組み、学びを深める子ども」を育む研究、学習指導資料「十勝の子どもの学力」、道東所員研、ミニ道研の連絡調整
所員	西村 弦	音更町下音更小	協力員研究「子どもたちが自己実現を図ろうとする特別活動の在り方」、教育講演会、広報誌「十勝教育研究」
所員	斉藤 雅彦	幕別町札内南小	共同研究「自ら学習に取り組み、学びを深める子ども」を育む研究、研究発表大会、広報誌「十勝教育研究」、ウェブサイトの運営
所員	大橋 一博	芽室町芽室中	協力員研究「子どもたちが自己実現を図ろうとする特別活動の在り方」、広報誌「十勝教育研究」、学習指導資料「十勝の子どもの学力」、カリキュラム支援センター
書記	清水 悦子	専任	庶務、会計、参考資料の管理